

広島大学フェニックスレーシング
第9回全日本学生フォーミュラ大会参加報告書

代表 河村 洋助



ご支援頂いた企業様



株式会社二上工作所様



1. 大会報告

9月5日

前日に大学を出発し、5日の正午に大会会場へと到着しました。その後チーム受付を済ませ、17時からプレゼンテーション審査に臨み、18時からFAとキャプテンでミーティングに参加しました。

9月6日

8時から技術車検を受けました。昨年度は車検に手間取り一部の動的審査を行うことが出来なかったため、一度での合格を目指しましたが数か所指摘を受け通過することは出来ませんでした。しかし指摘箇所は2か所と少なかったため数時間後にクイック車検を行って頂き、動的審査が始まる前に技術車検を通過することが出来ました。指摘箇所は以下の2点です。

1. ドライバーと冷却系の遮断
2. ブレーキランプスイッチの構造

車検の際マシンの構造とは直接関係ありませんが、数か所ボルトの緩みが確認されました。車検員の方に厳しく注意を受け、私たちの安全意識の低さと甘さを痛感しました。さらにチルト試験、ブレーキテスト、騒音検査に臨みました。昨年度苦勞したチルト試験は無事通過することが出来ました。しかし騒音検査では110dB以下で通過のところを113dBと越えてしまったため、排圧をコントロールするバルブを閉じることで音を小さくし通過することが出来ました。ブレーキテストは2回失敗したものの3回目で無事通過することが出来ました。

11時からデザイン審査、17時半からコスト審査に臨みました。

コスト審査に関しては昨年度は大会前の書類審査で落選したため、今年度が初参加となりました。しかし大会当日に行われるリアルケースシナリオがどういうものか把握しきれず満足のいくプレゼンを行うことが出来ませんでした。今年のフィードバックを来年度に活かし得点の向上を目指します。

9月7日

午前中はアクセラレーション・スキッドパッド、午後はオートクロスに臨みました。今年度は全種目完走を目標としており、昨年度車検が遅れ参加することが出来なかった午前中の動的審査に参加出来たことは大変嬉しいものでした。

アクセラレーションに関しては、1本目 5.462 2本目 6.888 となり、4秒台を目標としていたため決して満足のいく結果とはなりませんでした。

スキッドパッドに関しては1人目のドライバーが走行中に燃料ラインにエアが噛んでしまいリタイヤとなりました。2人目のドライバーは無事完走することが出来ました。パイロンタッチも重なり得点を伸ばすことは出来ませんでした。

オートクロスに関しては1人目のドライバーは1本目 01:15.854 2本目 01:34.503 となり、2人目のドライバーは走行中に燃料ラインにエアが噛みリタイヤとなりました。

9月8日

エンデュランス走行予定でしたが、オートクロスのタイム順で走行するためこの日は走行順が回って来ませんでした。そのため大会中に発生し始めた燃料ラインのエア噛みの対策を行いました。車検員の方にご指摘を頂き燃料フィルター・燃料ポンプの配置等の変更を行いました。症状は改善されず、同じ症状で苦しんでおられた新潟大学様に相談したところ燃料ラインのエア抜きが不十分であると指摘され、エア抜きのツールを貸して頂きました。この日はプラクティスでマシンの調整を繰り返しました。お忙しい中相談を受けて下さいましたスタッフの皆様、新潟大学様、誠にありがとうございました。

9月9日

10時半にエンデュランスに臨みました。

1人目のドライバーは完走することが出来ましたが、2人目のドライバーが走行中にまた燃料ラインにエアが噛んでしまい、15週目リタイヤとなりました。平均タイムは1分6秒前後でオートクロスの時よりも良いタイムが出ました。全種目完走を目指していただけに大変悔しい思いをしました。

表彰式に出席した後、テントを撤収し大学へ向け出発しました。

2. 大会成績

広島大学フェニックスレーシングの第9回大会成績は以下のとおりです.

		前年度
Cost Score	26.60	-100 (+126.60)
Presentation Score	26.25	18.75 (+7.50)
Design Score	48	25 (+23)
Acceleration Score	14.43	0 (+14.43)
Skid Pad Score	8.43	0 (+8.43)
Autocross Score	7.50	75.43 (-67.93)
Endurance—Economy Score	14.0	0 (+14.0)
Total Score	145.21 (総合 50 位)	

3. スポンサーの皆様へ

本年は多くのご支援を頂き、誠にありがとうございました。このような活動を行うことができるのは、皆様のご協力あってのものだとチーム一同深く感謝しております。それだけに今年も不甲斐ない結果しかご報告出来ず、大変申し訳ございません。

今年度の結果を踏まえ、フィードバック等を次のチームへと確実に伝え、来年こそは全種目完走・総合 20 位を目指しチーム一丸となって尽力致しますので、引き続きご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。